

中華料理の分類とデータベース作成

櫻井 秀憲

中華料理は日本人にとって非常に馴染みの深い料理である。だが、中華料理の料理名が漢字だけで書かれていることがあり、必ずしも漢字の料理名だけで料理の内容を把握できるわけではない。

従来の中華料理に関する研究では、歴史や文化的側面を論じることが多い。CiNii Articlesで「中華料理」と検索すると、中華料理の料理名を扱った論文は1件しかヒットせず、その論文は料理名を体系的にまとめた研究ではなかった。他の中華料理に関する論文でも、日中の料理名の対応を論じているものは少なかった。

そこで本研究では、歴史・文化的側面に着目するのではなく、漢字の料理名だけで中華料理の内容が分かるようなデータベースの作成を行う。漢字の料理名だけではどんな料理であるか把握することができず、対応する日本語が必要である。よって、漢字料理名と日本語料理名を収集する必要があると、図書とWebページを用いて収集した。図書では、『調理法別中国料理』の目次に記載されている料理名をすべて収集した。Webページでは、Web上に公開されている中華料理店のメニューを収集した。料理名を収集したことで、漢字と日本語の対応表を作り、漢字料理名から日本語料理名を、日本語料理名から漢字料理名を相互に検索可能となった。また、調理法に関するデータを『調理法別中国料理』、『中国食文化辞典』を参考にして収集した。特に、『中国食文化事典』の記述が『調理法別中国料理』よりも詳細だったため優先して採用した。例として、「炸」の解説が、「揚げる。大量の油を熱した中に材料を入れ、油を媒介として熱を通す調理法。」であること。また、「炸」の細かい調理法として「清炸」があり、その解説が「材料に、粉やといた衣をつけず、直接脂で熱した中に入れて揚げる方法。」であること、などをデータとして収集した。収集した調理法を整理した表を作成し、それによって料理名を分類することが可能となった。

作成したデータベースでは、漢字の料理名・日本語の料理名、調理法・調理法の解説を手掛かりとして検索することができる。漢字の料理名または日本語の料理名で検索を行うと、『調理法別中国料理』で得られた料理名及び調理法、Web上で公開されている中華料理店のメニューを知ることができる。調理法または調理法の解説で検索を行うと、『中国食文化事典』を中心とした詳細な調理法とその解説を知ることができる。

データベースの作成には、Windowsが広く普及していることを鑑み、Microsoft Access 2010を使用した。

今後の大きな課題は、利用者にデータベースを実際に使用してもらい、利用者の望む検索機能や編集機能を実装し、より便利なデータベースとすることである。

(指導教員 松本浩一)